



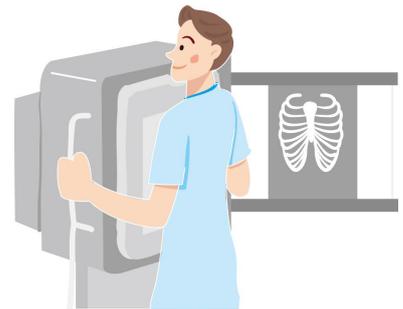
検査結果の見方（呼吸器：胸部）

▼胸部X線検査

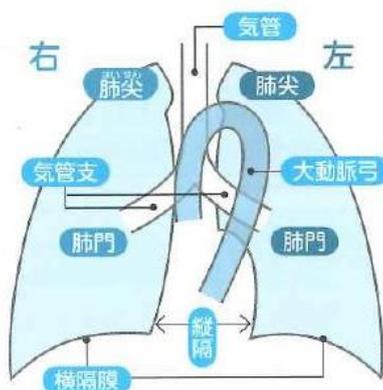
胸部にエックス線を照射して、肺や心臓、大動脈に異常な影がないかを調べる検査。
妊娠していたり、妊娠の可能性のある人は受けられません。

●この検査で疑われる病気

- 呼吸器の場合：肺結核、肺炎、肺がん、肺線維症など
- 循環器の場合：心肥大、心不全、大動脈硬化症など



【主な所見】



- 1.横隔膜挙上**
肥満による腹腔内脂肪の増加のため、横隔膜が上に挙がっている状態。横隔膜神経の麻痺、横隔膜弛緩症、肝腫大、横隔膜ヘルニアなどでみられる。
- 2.大動脈弓部石灰化**
大動脈にカルシウムが沈着している。動脈硬化などの場合に見られる。
- 3.心拡大**
胸部の横幅に対して、心臓の横幅の割合が50%を超えている状態。
年齢や体形にもよるが、**心不全の兆候である場合もある。**
- 4.側彎症**
脊椎が左右に曲がった状態。ねじれを伴うこともある。
- 5.瘢痕**
肺感染症が治ったあとに残った小さな痕跡の陰影。
- 6.胸膜肥厚**
過去の肺の炎症などが治ったときに、肺を覆っている膜が厚くなった状態。

7.陳旧性陰影

過去にかかった肺炎や結核などの炎症の痕。

8.嚢胞（ブラ）

肺の中に、袋状の「のう胞」ができている状態。大きさによっては破裂して、**自然気胸を起こすこともあるため、経過観察が必要な場合もある。**

9.石灰化

カルシウムが沈着するもの。肺結核後にみられる。

10.斑状陰影

辺縁が少しぼけた斑点状の陰影をいう。肺感染症に起因することが多く、肺結核や肺炎の初期、非結核性抗酸菌症、肺真菌症（カビで起こる病気など）に見られる。

11.結節性陰影

胸部エックス線画像に映った直径3cm以下の類円形の陰影をいう。

原発性肺がんや大腸がん、腎がんなど他の部位からの転移、結核、肺真菌症）、非結核性抗酸菌症、陳旧化した肺炎、良性腫瘍（過誤腫など）などに見られる。

12.気胸

肺胞という袋状の組織が融合した大きな袋が破れる病気。

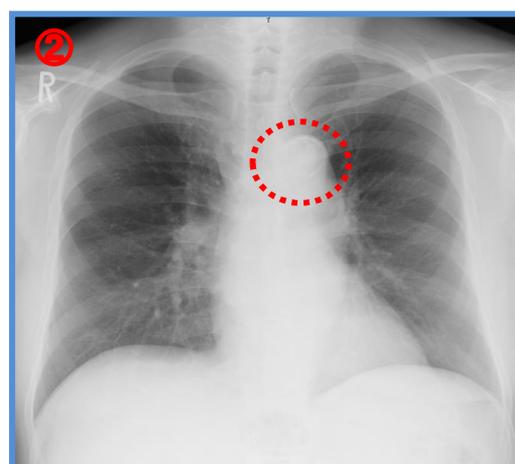
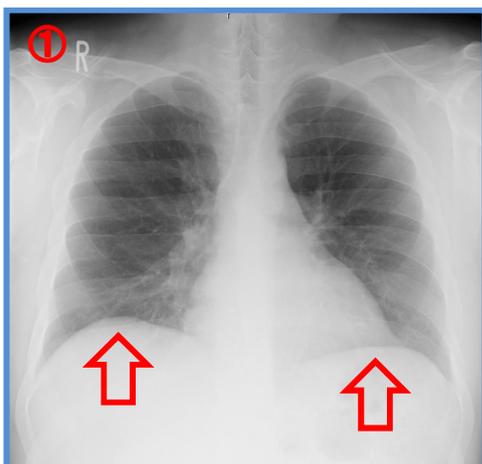
ブラという空気の袋の破裂などが原因で起こる。その結果、肺から空気が抜けて萎んだ状態（肺虚脱）となり、胸部エックス線検査では虚脱した肺と胸腔内に空気の溜まりとして認められる。胸腔内圧が上昇する緊張性気胸では、縦隔部が圧排されて反対側に偏位し横隔膜が押し下げられる。

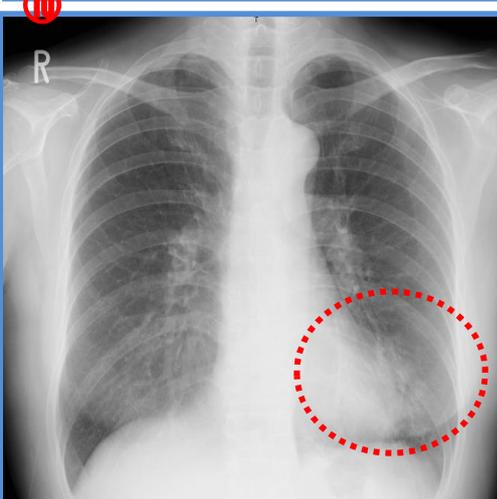
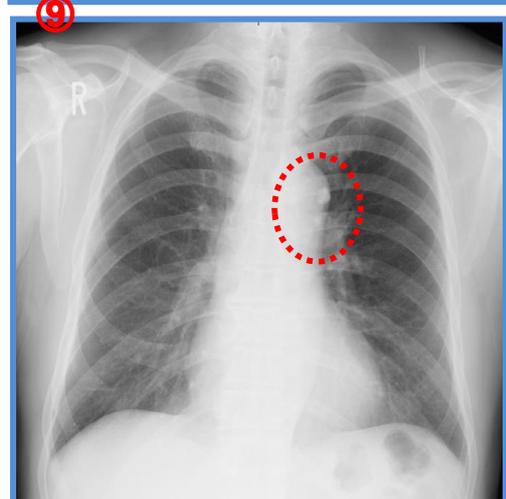
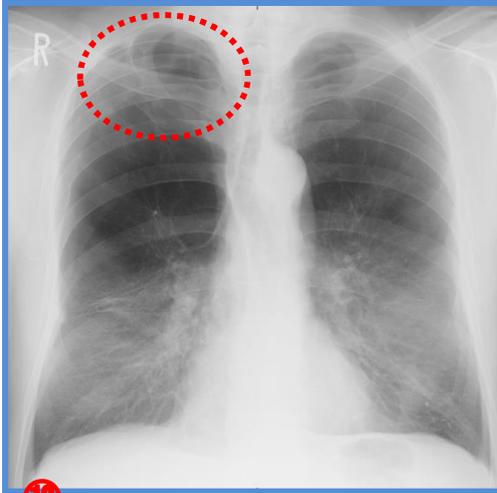
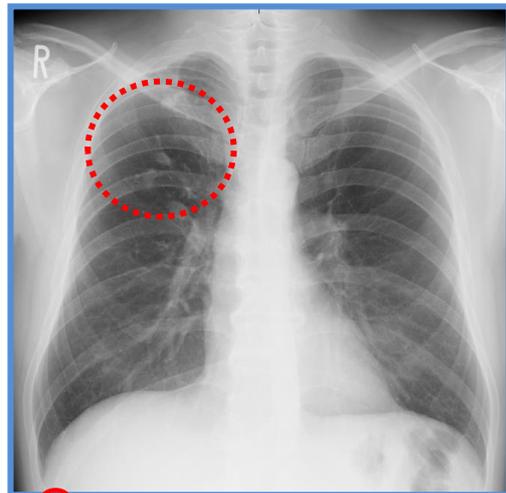
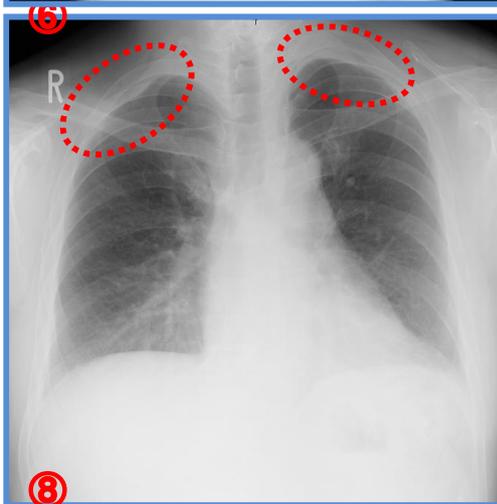
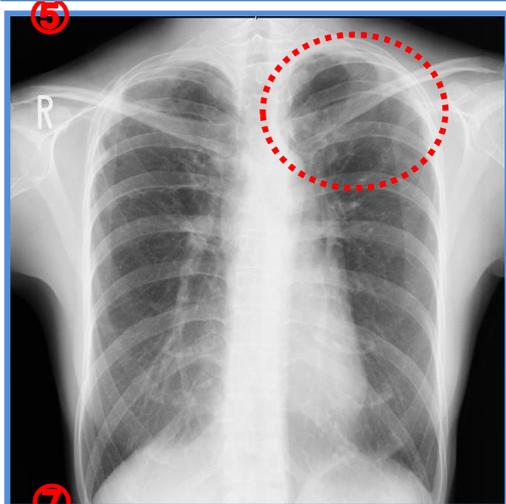
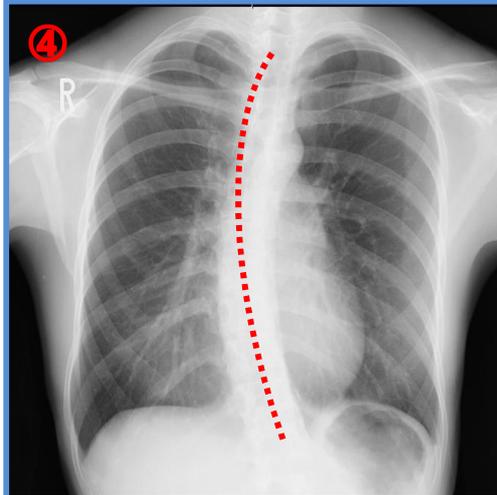
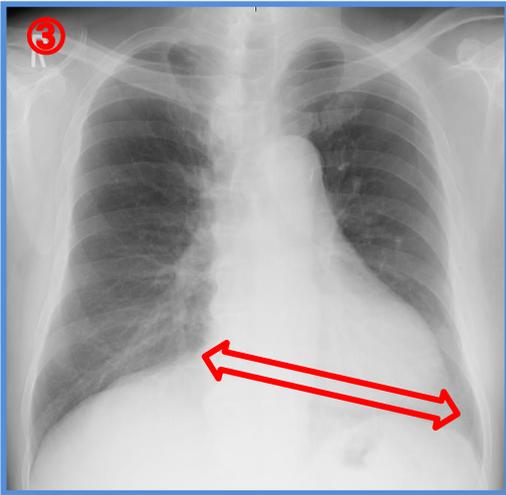
13.右胸心

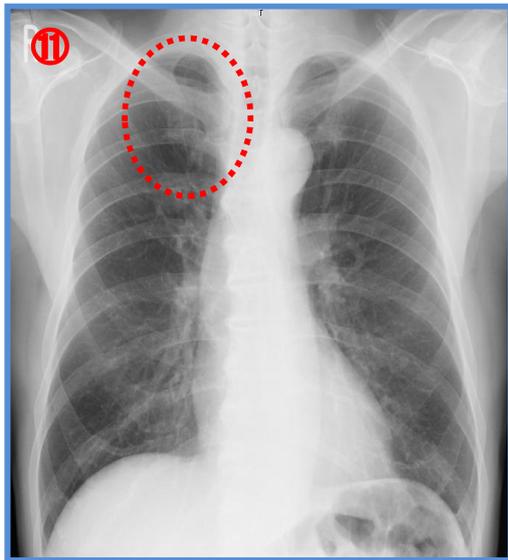
本来は胸部の左側にある心尖部が右側を向いている状態。

発生頻度は、概ね12000人に1人の割合である。

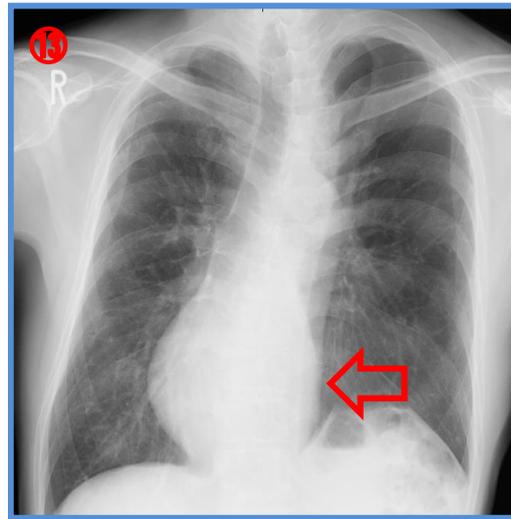
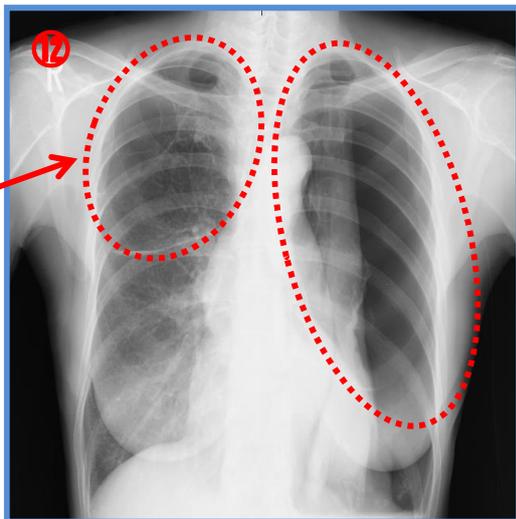
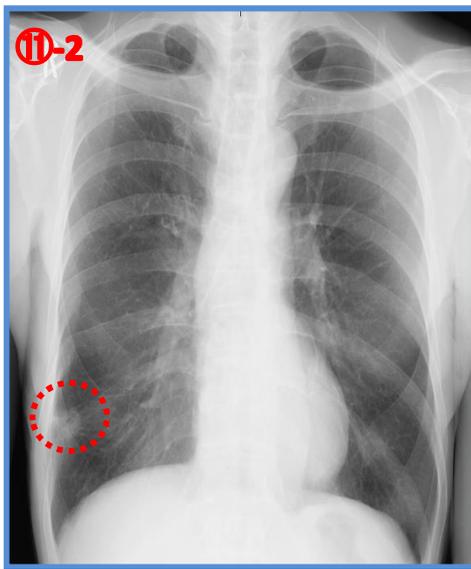
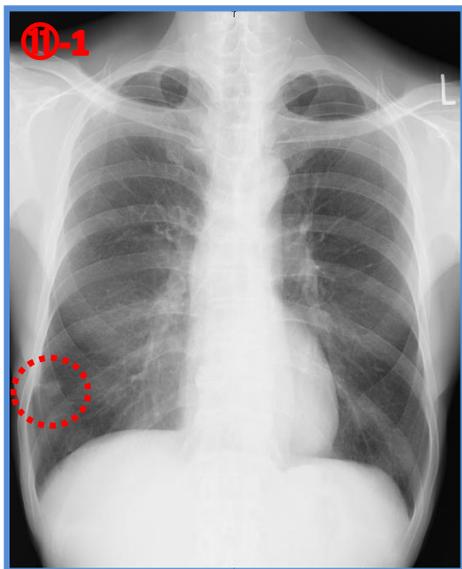
【主な所見画像】







【3年の年次経過】 (1: 2015年撮影 2: 2016年撮影 3: 2017年撮影)



再検査、精密検査が必要と判定された場合には、迷わず受診しましょう。
異常があったとしても早期であればあるほど、治療が奏効する確率が高くなり、医療費も安く済みます。

「再検査を受けて早期発見、早期治療につなげましょう。」

井上病院附属診療所 健診センター

文：管理栄養士

古屋 麻起子

